## 演習問題 4.1

# 以下の2つ関数 drop1 drop2 の定義が等価であることを示す。

定義が等価とは? → おそらく、任意の入力について出力が等しくなるような2つの関数が等価

drop1 を脱糖すると、

```
fun drop1 x = $case x of
  (0, s) => force s
  (n, $Nil) => force ($Nil)
  (n, $Cons(x, s)) => force (drop1 (n-1, s))
```

また、drop2 を脱糖すると、

ここで、 drop' は正格なパターンしかマッチしないため、 force は drop' の適用後に対して働くことになる。

x に対するパターンマッチは (n, s) の1通りのみであり、マッチした結果はそのまま drop' に渡される。ここで、drop' のパターンマッチの定義が、脱糖した drop1 のcase式のパターンマッチの定義と等価であるため、drop2 の最終的な評価結果は、drop1 と常に一致することがわかる。

### メモ: 停止計算が一枚岩とは

引数に取った \$x の形式の x 部分を正格評価してから計算に使い、 \$ で包んで返す、みたいなことをしている

### メモ: 糖衣構文

#### メモ: 具体例への適用

長さ3のリストから1要素ドロップする例を考える

```
> drop1 (1, $Cons(1, $Cons(2, $Cons(3, $Nil))))
= $force ($drop1 (0, $Cons(2, $Cons(3, $Nil)))) -- drop1 パターン3 適用
= $drop1 (0, $Cons(2, $Cons(3, $Nil))) -- force 適用
= $force ($Cons(2, $Cons(3, $Nil))) -- drop1 パターン1 適用
= $Cons(2, $Cons(3, $Nil)) -- force 適用
```

```
> drop2 (1, $Cons(1, $Cons(2, $Cons(3, $Nil))))
= $force (drop' (1, $Cons(1, $Cons(2, $Cons(3, $Nil))))) -- drop2 適用
= $force (drop' (0, $Cons(2, $Cons(3, $Nil)))) -- drop' パターン3 適用
= $force ($Cons(2, $Cons(3, $Nil))) -- drop' パターン1 適用
= $Cons(2, $Cons(3, $Nil)) -- force 適用
```

長さ1のリストから3要素ドロップする例を考える

```
> drop1 (3, $Cons(1, $Nil))
= $force ($drop1 (2, $Nil)) -- drop1 パターン3 適用
= $force ($force ($Nil)) -- drop1 パターン2 適用
= $force ($Nil) -- force 適用
= $Nil -- force 適用
```

```
> drop2 (3, $Cons(1, $Nil))
= $force (drop' (3, $Cons(1, $Nil))) -- drop2 適用
= $force (drop' (2, $Nil)) -- drop' パターン3 適用
= $force ($Nil) -- drop' パターン2 適用
= $Nil -- force 適用
```